

安全教育



第32号

平成23年
2月26日発行
発行責任者
齋藤武彦

財団法人 横浜市安全教育振興会 横浜市中区港町1-1 横浜市教育委員会内
〔事務局〕 〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831
<http://anshinkai.or.jp> e-mail:anshinkai@extra.ocn.ne.jp



横浜市教育委員会 教育長
山田 巧

日頃から、横浜の子どもたち一人ひとりの健やかな成長を願い、子どもたちの安全のために様々な取組をされている財団法人横浜市安全教育振興会の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

未来を担うすべての子どもたちが、安全に安心して学校・家庭・地域で社会生活を送り、健やかに成長していくことは、私たちみんなの願いです。

横浜市教育委員会におきましても、平成18年に、おおむね10年後の横浜の教育の目指すべき姿を描いた「横浜教育ビジョン」を策定し、教育の使命を「子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体を育むことで、人格の完成を目指し、社会を担う者としての資質を身に付けた市民を育成すること」、「先人が築き上げたものを大切にしつつ新たな挑戦をしていく姿勢、自らが幸せに生きるとともに他者の幸せにも寄与しようとする姿勢をはぐくむこと」として、横浜の子どもたちを育てています。

しかし近年、子どもたちを取り巻く環境は厳しく、必ずしも安全・安心に過ごせる状況ばかりとは言えません。最近では、児童虐待をめぐる事件が横浜市も含めて全国各地で発生しており、大きな社会問題となっております。

本市では、この事態を深刻に受け止め、児童虐待対策を早急にかつ総合的に検討するため、平成22年9月に「児童虐待対策

学校・家庭・地域とともに子どもたちを育む

プロジェクト」を設置しました。教育委員会もこのプロジェクトに参画し、実効性のある対策の検討を行っています。

また、少子高齢化や核家族化、情報化など子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、子どもたちの規範意識の低下や人間関係を形成する力の低下、基本的生活習慣の欠如など様々な課題が顕在化しております。

こうした状況に対応するため、これまでも学校では、道徳教育を推進するとともに、いじめや暴力行為など児童生徒の問題行動の未然防止・早期解決に向けた取組などを進めてきました。また、学校・家庭・地域で協力し、早寝・早起き・朝ごはんといった規則正しい生活習慣の啓発などに取り組んでまいりました。

今年度、教育委員会では、「横浜教育ビジョン」の後期5か年（平成22年度から平成26年度まで）の計画にあたる「横浜市教育振興基本計画」を策定し、これからも、子どもたちが安心して健やかにたくましく成長していけるよう、様々な施策に取り組んでまいります。

今後とも、保護者をはじめとする地域の皆さまや関係機関の皆さまのご理解、ご協力のもと、学校・家庭・地域とともに力を合わせて子どもたちを育ててまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

終わりに、財団法人横浜市安全教育振興会のますますの御発展と御活躍を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

危機管理能力の育成をめざす 学校安全教育の在り方を求めて

横浜市立森東小学校

1. 子どもの安全・安心は、地域・学校ぐるみで

森東小学校では、「子どもが、安全・安心に学べる環境づくり」をすることが、「保護者・地域に信頼される学校づくり」、「しっかりと学び確かな力を身に付けさせる学校づくり」に繋がるとして、学校・家庭・地域が一体となって、学校安全に取り組んでいます。

2. 学校安全は、安全教育・安全管理の両面から

『学校安全』は、子どもたちが、自他の生命を尊重し、自らが安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育てるとともに、子どもの安全を確保する環境整備を主なねらいとしています。

そこで、本校では、子ども一人ひとりが、危険を予知し、状況判断のもとに行動するという「危機管理能力」の育成に向けて、次にあげる事項に視点を当てながら取り組んでいます。

(1) 学校安全のとらえを明確にした実践から

『学校安全』は、学校保健、学校給食とともにそれぞれの独自の機能を担いつつ、相互の関連を図りながら、子どもの健康の保持増進をねらいとしています。

本校では、次にあげる「安全教育」、「安全管理」、並びに「組織活動」を円滑に展開できるように実践しています。

(2) 安全教育の内容を踏まえた計画立案と実践から

『安全教育』は、子どもが興味・関心をもって学習に取り組み、危機管理能力を身に付けられるよう、「安全学習」と「安全指導」の内容を次のように関連させながら、意図的、継続的な指導ができるようにしています。

安全教育

安全学習

- 保健学習(3年～6年)
 - ・ 毎日の生活と健康(3年)・育ちゆく体とわたし(4年)
 - ・ 心の健康(5年)・けがの防止(5年)・病気の予防(6年)
- 体育学習(全学年)
 - ・ 各運動領域において安全に運動するための態度の内容
- 生活科、社会科、理科、道徳、総合的な学習の時間 等
 - ・ 各領域において安全に活動するための態度の内容

安全指導

- 特別活動【学級活動、学校行事、課外指導 等】
 - ・ 日常生活や学習への適応及び健康安全に関する内容
 - ・ 健康安全・体育の行事、集団宿泊の行事 等

(3) 安全管理の徹底(実践状況の評価と指導改善)から

『安全管理』は、事故の要因となる学校環境や子どもの学校生活における危険な行動などの早期発見及び状況に応じた危険要因の除去を最重要事項として、教職員集団による「機能的な組織活動」ができるように実践しています。

3. 『学校安全』における実践事例から

『学校安全』は、上に示した安全教育の内容を構成する「安全学習」及び「安全指導」からなる「森東小学校安全計画」に基づき実践されています。

本稿では、「安全管理に関する事項」の事例を中心に紹介します。

① 登下校時の日々の交通安全指導から



森東小学援隊活動として、保護者の見守り旗当番や、教職員、交通安全指導員との交通安全指導が、登下校時毎日行われています。

② 通学路における交通安全・防犯マップづくりから



資料1：森東学区地図(交通安全・防犯)

子どもの危機回避能力の育成に向けて、「交通安全・防犯マップづくり」(資料1)を取り上げ、指導しています。

身近な環境の「通学路」や「遊ぶ場所」を、交通安全や防犯の視点で見つめ直すことにより、安全への意識高揚につながっています。

③ 生活科「森東学区地図」を活用したまち探検から

「子どもの安全は、子ども自らが森東のまちを知ること」をねらいに、「まち探検マップ」を活用した地域学習を行っています。「交通安全」や「公園：防犯」の視点をチェック項目に活用したりします。

④ 「心肺蘇生法体験実習」の実施から

夏季休業前に、高学年児童が、「水難事故発生時の対応行動を身に付ける」をねらいに、4～5名グループで心肺蘇生人形1体を使っての体験実習活動を行っています。

⑤ 交通安全教室の実施から



写真：森東小 交通安全教室

交通安全への意識高揚と正しい行動をねらい、低学年は正しい歩行について、中学年は、正しい自転車の乗り方の交通安全教室を、磯子警察署、地域の交通安全指導員、PTA校外委員の方々との連携で開催しました。

⑥ 給食集会【特活：健康安全に関する活動】の実施から

給食週間期間(1月24日～28日)に、健康パクパク委員会児童によって、「学校給食への感謝を含めた全校集会」が行われました。

4. まとめ

「子どもたちの安全・安心」には、学校・家庭・地域や関係諸機関が一体となった取組が不可欠です。しかも、子ども一人ひとりが、「自分の健康で安全な生活を送るために必要なことは何か」を意識した取組(生活改善)に繋げることは、特に重要だと思います。

今後は、これまでの実践の成果と課題を踏まえ「森東小学校安全指導」の充実に向け努めていきたいと思っています。

情報通信技術(ICT)とコミュニケーション

～主体的に対応できる横浜の子ども～

横浜市PTA連絡協議会

はじめに

ここ数年のICT(情報通信技術)環境の急激な変化にはとても驚きます。携帯電話、パソコン、インターネットの加速度的な進化に、速やかに対応できる人と関わらなくとも良しとする人など捉え方の違いがあるようです。しかし、子どもたちを取り巻く教育環境は、もはやICTがなくてはならない状況となっており、これは教育分野のみならず行政サービスなど社会の共通基盤としてあらゆる分野に及んでいます。

研究課題

横浜の子どもたちに携帯電話、パソコン、インターネットをいかに安全に活用し主体的に対応できるように育んでいくか。今年度の横浜市P連のテーマ「かがやく笑顔・きらめく心」に基づいて、横浜教育ビジョンの施策連携など様々な取組を行いました。

携帯電話に関する取組

(1) ケータイ・ネットから子どもを守る提言

横浜「ケータイ・ネット」五か条

- 一、 横浜の『家庭』は、子どもの「ケータイ・ネット」の所持・利用に責任を持ちます。
- 二、 横浜の『学校』は、「ケータイ・ネット」のルールを明確にします。
- 三、 横浜の『地域』は、『家庭』や『学校』と共に「ケータイ・ネット」からもたらされる悪影響から子どもを守ります。
- 四、 横浜の『行政』は、「ケータイ・ネット」に関する『家庭』、『学校』、『地域』の取組を積極的に支援します。
- 五、 横浜の「ケータイ・ネット」に関わる『事業者』は、その社会的責任を認識し、行動します。



- (2) 県内全PTA団体合同研修会の実施
「子どもたちの携帯電話利用の現状と問題」
- (3) フィルタリングサービスの活用(有害情報排除)
- (4) 緊急連絡メール配信システムの活用
- (5) 行政・自治体発信の緊急速報の受信
- (6) 携帯GPS情報の活用(子どもの居場所把握等)

ICT活用に関する取組

横浜市教育委員会の策定による「横浜教育ビジョン」の達成に向けた連携協力を行っています。

- (1) 横浜市教育情報ネットワーク(Y・YNET)の活用(教育委員会～学校～保護者の情報共有とコミュニケーションツールとしての活用など)

- (2) ICT学習よこはまスタンダードの活用

- (3) 学校の情報化に向けた支援体制の推進

保護者・地域の方の協力により実施した「ネットデイ」ボランティアによる校内LAN工事が基盤設備となりICT推進のベースとなっています。

今後の動向



今後のICT導入の一例として世界最先端の3D映像技術MR(ミクストリアリティ、Mixed Reality=複合現実感)があります。2010年9月に開催されたG空間EXPOでも紹介されています。誰もが学ぶことのできる放送大学では、このMR技術を授業に導入しています。授業で小型恐竜の骨格標本を展示し双眼鏡型のディスプレイ「MRスコープ」を覗くとCGの恐竜が展示台を降りて動き出す仕掛けで、近づいて見下ろしたり、さまざまな角度から見たることができます。

右目用と左目用のビデオカメラで撮影した映像をすぐにCGと合成し、学習者は時間の遅れを感じることなく合成映像を体感することができ、現実と組み合わせることで臨場感が増し5分程度の体験でも記憶に残り学習効果が高まります。この技術をあらゆる教材で積極的に導入していくことで、学習効果を高める効率的かつ効果的なツールとなります。今までに無かったこの技術はこれからも加速度を増し教育環境をサポートし続けます。

おわりに

様々な取組の中から、子どもたちが情報機器をコミュニケーションツールとして使いこなす柔軟性と吸収力の素晴らしさには目を見張るものがありました。この使いこなす技術を創造する力へとフィードバックさせれば、様々な課題に主体的に対応できる横浜の子どもたちが育まれます。子どもたちを育む環境を社会全体でより良く構築するために、我々保護者も子どもと共に歩む努力をしていかなければなりません。



新たな財団への準備を

財団法人横浜市安全教育振興会
理事長 齋藤 武彦

PTA共済法公布

待ちに待った「PTA・青少年教育団体共済法」(以下、「PTA共済法」)が昨年6月2日に公布されました。

皆様ご周知のように、オレンジ共済など一部の詐欺的商法を規制することを目的として保険業法が改正され、平成18年4月から新保険業法が施行されました。この保険業法の施行により、会員の相互扶助を目的とした見舞金給付事業が保険業とみなされ、廃止に追い込まれる可能性が出ました。そして、このような状況の中で廃業したり、事業を縮小してしまったりした団体が少なからずありました。振り返ってみますと、私たちの安振会でも平成19年度・20年度には理事会や評議員会において「給付事業ができなくなるのではないか。」「安振会は大丈夫なのか。」等々に関しての論議もなされました。しかし、安振会是一部の情報に流されることなく、県や国から積極的に情報を収集し先を見通した対応を選択したのです。

安振会は財団法人であることから、新しい財団法人への移行の期限である平成25年11月30日までは現状の給付事業を継続できるということで、同じような給付事業を行っている全国の団体と連携し新保険業法の適用除外や新たな共済法立法について金融庁や文部科学省に働きかけてきたのです。これらの経緯につきましては、「安全教育」29号～31号で逐次報告させていただきました。

さて、このたびのPTA共済法が公布されたことにより、安振会の見舞金給付事業は根拠法に基づく共済事業としてこれからも継続していけることが保障されたのです。

さらに、この1月14日、文科省より安振会などの共済事業については「公益目的事業の特徴を見出し得る」という情報提供がありました。このことは、安振会の主たる事業である見舞金給付事業が公益目的事業として認められるということになったわけです。

新たな財団法人への移行

安振会は昭和52年に相互扶助の精神に基づく横浜市PTA親子安全互助会として誕生し、昭和62年に財団法人として新たに出発して以来25年目を迎えます。その安振会が今、再び生まれ変わる時期を迎えております。

前述のように、見舞金給付事業が公益目的事業として認められることにより安振会是一般財団法人にも公益財団法人にも移行できることになったわけです。安振会のさらなる発展を考えた時、どちらの選択が望ましいのか、あらためて知恵を出し合いたいと思います。また、共済事業としての認可をいつ受けるのかも課題です。

そこで、これからの安振会の姿を明確にし、財団移行や共済認可のための具体的な取組を始めなければなりません。

財団移行や共済事業認可のための取組

安振会を25年度当初から新たな財団として出発させたいと考えております。そして、そのための取組を23年度から具体的に進めてまいります。

新財団への移行や共済事業の認可を受けるには、さまざまな事柄を検討しなければなりません。例を挙げてみますと、実施事業の区分、新しい会計基準の導入、そして新たな定款の作成等々、があります。これらを理事会で慎重に審議し決議していきませんが、理事会にかけける原案の企画・立案や行政庁との交渉をする実行委員会を立ち上げたいと考えております。

実行委員会の構成は、理事会と評議員会の代表者、市P連・校長会・市教委の代表者、常務理事、事務局長の8名を考えています。来年度早々に立ち上げ、取組の推進をしてくれることを期待しています。

さて、本年度も残すところわずかとなりました。この1年間に寄せられた会員の皆様の温かいご理解とご支援への感謝の心を来年度の活力とし、一層の努力をしていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

平成 22 年度 安全教室の開催

	日 時	防災安全教室 9:50~11:50	救急救命法教室 9:00~12:00
第 1 回	平成 22 年 7 月 9 日(金)	41 名	45 名
第 2 回	平成 22 年 7 月 16 日(金)	30 名	45 名
第 3 回	平成 22 年 10 月 8 日(金)	38 名	47 名
第 4 回	平成 22 年 10 月 15 日(金)	48 名	50 名
第 5 回	平成 22 年 11 月 5 日(金)	31 名	45 名
第 6 回	平成 22 年 12 月 2 日(木)	31 名	40 名
計		219 名	272 名

会 場 横浜市民防災センター

内 容

【救急救命法教室】

- * 普通救命講習
 - ・心肺蘇生法
 - ・「AED」の取扱い方法
 - ・止血法

【防災安全教室】

- * 防災講和
- * 地震体験
- * 消火器体験
- * 展示コーナー見学



平成 22 年度 賠償事故状況概要（12 月末現在）

事故総数	校 内	校 外	車損傷	ガラス破損	メガネ損傷	対人事故	その他
405 件	168 件	237 件	86 件	144 件	56 件	47 件	72 件

ガラス破損の内訳

校内100件		校外44件	
小	中	小	中
28 件	72 件	32 件	12 件

車損傷の原因

自転車	ボール	石	その他
34 件	20 件	19 件	13 件

自転車事故の内訳

対車	対人	その他
34 件	12 件	5 件

- ・校内事故(168件)の 85%(144件)がガラス破損事故となっています。また、ガラス破損事故の69%(100件)が学校のガラス破損です。
- ・自動車損傷の事故も昨年度とほぼ同様の 20%代と多く、その原因は自転車による接触事故が 40%となっています。例をあげてみますと「ブレーキをかけたが間に合わずに…」。「車の脇をすり抜けようとして…」。「車と車の間を通ろうとして…」というようなものが多く、一歩間違えば本人が大けがをする危険性も十分考えられます。
- ・自転車による加害事故も相変わらず多くなっています。上記の対自動車事故が70%(34件)近くと最も多いのですが、自転車による対人事故も 20%(12件)を超えています。あらためて自転車の「正しい乗り方」について学校や家庭で確認をお願いいたします。

「目標への挑戦」

～本気になれば何かが変わる～

講師 日本体育大学 教授

具志堅幸司先生

平成22年10月26日（火）

参加者：約 450 名

横浜市教育文化センター教育文化ホール

（横浜市立小／中／特別支援学校／高校保護者、教職員、学校関係者）



成功もたらすイメージ力と言葉

私の名前「具志堅幸司」を、誇りに思っています。具体的な「具」、志すの「志」、堅固な「堅」で、具体的な志を強く持てば「幸」せが「司」る、だからです。目標を持つことの大切さが表現されています。

1984年のロサンゼルス五輪で、ピーター・ビドマー選手（米国）と0.025の僅差で奇跡の逆転個人総合優勝しました。試合会場へ向かうバスの中で3回、当時はまだ認知されていなかったイメージトレーニングをしました。前日のあん馬での落下が脳裏をかすめますが、全6種目を終え優勝して日の丸を掲揚しながら感涙している自分が見えました。そして、不思議なことが競技中に起こったのです。3回目のイメージトレーニングが、進行中の現実と重なっていました。

まさしく、「成功するには具体的にイメージする」です。イメージトレーニングは、2回目のアキレス腱を切って以降、練習の基となっており、モスクワ五輪のボイコットなど逆境の時に、素晴らしいスタートをさせてくれました。

13歳から始めて40年以上、体操一筋の人生です。17年の選手生活で学んだことは、「言葉が成功をもたらす」です。3年間、あいさつのように「インターハイに優勝する」と、言い続けました。また、清風高等学校（大阪）の恩師・桑原昭吉先生から演技前に唱えろと教えられた「はるち、うむち、つづち」（「古事記」）は意味がわからなかったのですが、信頼する桑原先生の言葉だから実行しました。目標を具体的な言葉に置き換えることが現実を高めた、と思います。

指導者1号だった母

小学校6年間のうち、1年半は怪我で入院しました。1週間に2度骨折するほどやんちゃで、勉強は苦手でした。6年生の時、母と感激しながらメキシコ五輪をテレビで観戦していました。「これ、やってみたい。やっていいか？」と聞くと、「好きなようにしなさい」「やれるかなー？」「がんばればできる」「金メダルとれる？」「努力したらね」。この「努力したらね」の一言が、今でも耳に残っています。好きなことを好きなだけ支援してくれた両親です。指導者第1号は母だったように思います。

そして、学業不振のまま中学で体操を始めます。中2の時に名門・清風高校への進学を希望したら、「無理」だと言われました。下校途中、電信柱の貼り紙「明治牛乳配達員募集。月給9000円」が、目に留まりました。これで学習塾に通える。「牛乳配達したい」と私。「初めて勉強すると言ったよ。塾代2000円は親が出すから、配達しなくていい」と母。「でも、叔父さんと約束した…」。困った母は父と相談したのでしょうか、翌日、許可が出ました。その時の「人に迷惑をかけるのが1番良くないから、休むな」も、心に残る言葉です。1年間無欠勤だった私を「よくやりきった、立派だった」と褒めてくれました。嬉しかったです。

五輪で金メダルを取る夢を抱き、日体大進学を目標にしたのは14歳の時でした。毎日、欠かさず実践したのが次の5つです。

- ①牛乳配達—朝食が美味しかったです。
- ②朝練習—全部員が参加するようになりました。
- ③勉強—清風高校を目標に勉強し、学ぶ楽しさを知りました。
- ④部活—生き生きしていました。
- ⑤学習塾通い

精神を育てくれたこの1年が礎になって、その後の度重なる試練を乗り越え、メダリストになれたのだと思っています。

目標は文字と言葉にせよ

実は、“14歳の夢”をノートに書いていました。20歳でノートを見つけ、五輪出場にあと1歩のと

ここまで実現している自分に鳥肌がたちました。14歳の自分に励まされた瞬間でした。「人間はなりたい人間になれる」のです。桑原先生との出会が、精神の骨組みを作りました。先生が本『生きがいの探求』の中から紹介してくれたのが、「書いているうちに真実に近づき、言っているうちに誠が出てくる」です。まさに、そうでした。水泳の北島康介選手も目標タイムを書き、言葉にしています。

私が18歳の時のことです。墓参りに帰郷した折に、「オリンピックに出る」と言いふらしていたそうです。皆はホラを吹いていると思ったそうです。私は常々、「嘘は悪いがホラはいい」と言っています。ホラは夢であり希望です。皆さん、目標を言葉にしていたら聞いてあげてください。

アーチェリーの山本博選手の「20年かけて銅から銀になりました。あと20年かけて金にします」や、長寿で有名になった金さん、銀さんの「出演料は老後のために残します」は、素晴らしい言葉です。マイナス要素がありません。山本選手は、体調、心理、風向きなど詳細な日誌を習慣化していました。過去を振り返り見直すことができると言います。書いているからできるのです。言うこと、書くことは競技力アップのみならず、生き方に大きく寄与すると思います。

ピンチの時こそ本気になれる

H・エビングハウス（ドイツの心理学者）の「忘却曲線」によると、人間は20分後には42%を忘却し、反復しなければ1週間後には23%しか残っていません。注意力も同じ曲線を描きます。怪我などの危険は、指導者や親、環境分野で、注意力を喚起すれば防げます。怪我や事故には必ず前触れがあるので、私たち大人が子どもや選手を育てる際には、観察力や予測力を身につける必要があります。

「コーチ (coach)」には「大型バス、客車」の意味があり、コーチである私は日体大体操教育部のタクシー運転手です。いきなり行き先にオリンピックを指示する選手には、「アジア大会経由、世界選手権乗り換え、五輪出場」の大小の目標を、言わせながら立てさせます。常に大小の目標を立てることは大事です。大中の目標がぼやけているのは仕方ないとしても、小の目標がぼやけていたら話になりません。「この瞬間」を疎かにして目標達成はないと、肝に命じておくべきです。

本気になれば、具体的になり、目標が明確になり、継続できて、状況や次の展開が読めます。本気になれるチャンスがピンチです。2回目のアキレス腱切断で体操を断念しようと思った時、恩師

の手紙や仲間の励ましで再び本気になりました。人生は、具体的に目標を立てること、考えること、反省すること、準備すること、そして感謝することが大事だと思います。

最後に、小6の時に書いた詩を恥ずかしいですが披露します。

けんすい

1回、2回、3回、4回、5回

ぼくは上がる、あの青空の向こうまで

6回、7回、みんなが力強い声を出すたびに
ぼくの手に力がこもる

8回、9回、鉄棒はぼくの手を離さない
その時だ、ぼくの心が2つに分かれた

ひとつははげます心

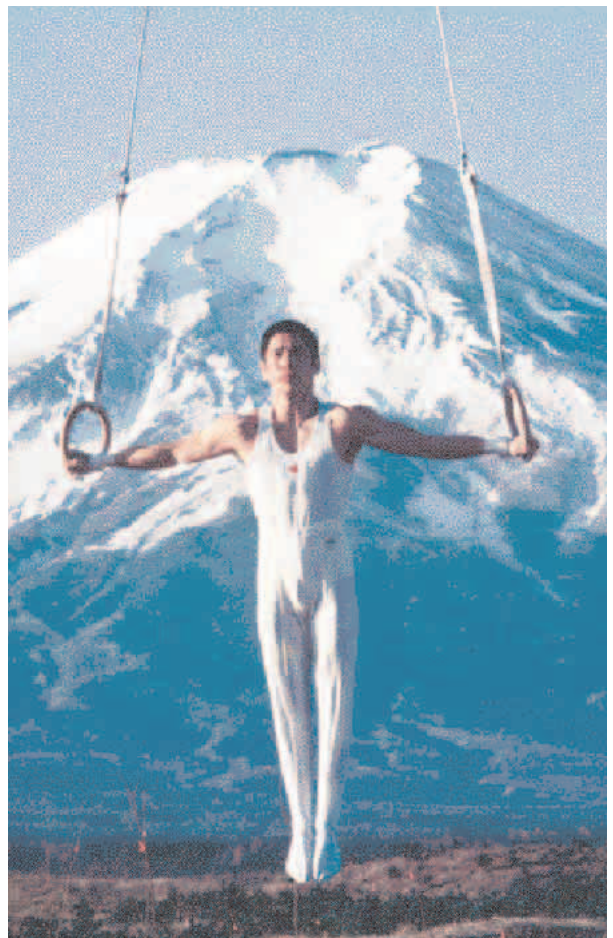
もうひとつは、こんなもの止めてしまえと
心がふたつにわれた

10回、11回、あっ、鉄棒がぼくの手を離れた
なぜだ、なぜだ、ぼくの目的は15回

次の日、どうして15回できなかったか反省した
すると、ぼくの心にはふたつあるからだ

これからけんすいする時、ひとつの心でいかな
きゃならないと思った

平尾小学校6年 具志堅幸司



第24回

「健康と安全」

応募点数 ● 369点

受賞作品 ● 特別賞17点 入選21点 佳作21点

審査委員 ● 横浜市立中学校美術研究会会長
横浜市立小学校図画工作研究会会長

西 垣 幹雄 先生 (横浜市立上の宮中学校長)

ハッ橋 洋一 先生 (横浜市立駒岡小学校長)

◆横浜市長賞

「愛情たっぷりお弁当」
生麦中学校3年 中野友加里



◆横浜市教育委員会 教育委員長賞

「サプリメントよりおいしい野菜」
潮田中学校3年 飯岡 留菜



「かくにんして わたろうよ!」
中丸小学校2年 岩尾みずき



「支えあってるよ」
都筑小学校3年 牧田 隆広



◆横浜市教育委員会 教育長賞

「気をつけて!!」
浜中学校2年 熊木 一葉



「野菜は地球のおくりもの」
潮田中学校2年 川端 愛永



「かならず見よう 右左」
西が岡小学校3年 丹羽 優菜



ポスター展

展示期間:平成22年12月 22日(水)
～12月 27日(月)
展示会場:横浜市民ギャラリー

財団法人 横浜市安全教育振興会 理事長賞



「集まれ! キャンプ」
西本郷小学校6年
田中希実子



「明るい町は、安全な町」
港南台第一小学校6年 上出 頼奈



「緑を増やそう!」
東野中学校2年
笹淵伊緒奈



「しっかり食べて元気な体」
瀬谷さくら小学校4年
川口 溪太

◆横浜市PTA連絡協議会 会長賞



「守ろう元気な「ただいま」」
末吉中学校3年 小山田棕葉



「けむりを出さない思いやり」
瀬谷さくら小学校4年 西山 愛海



「それで良いの?」
藤の木中学校2年 立花 知樹

◆神奈川新聞社賞



「しっかり食べて!! 楽しい食事!!」
不動丸小学校3年 広瀬 貴帆



「信号のわたり方 大じょうぶ?」
品濃小学校4年 土井 優奈



「受動喫煙」
洋光台第二中学校2年 寺内 友輝

■加入状況

平成22年度加入状況

校 種	賛助会員数	世帯数
小 学 校	342	147,825
中 学 校	142	68,009
高 等 学 校	5	3,645
特別支援学校	12	1,348
総 計	501	220,827

(小学校には、横国大附属横浜小が含まれる)

平成22年度役員・審査委員名簿

顧 問	横浜市教育委員会教育長 山田 巧		
役 職	氏 名	備 考	
理事長	齋藤 武彦	学識経験者	○
常務理事	遠藤志津江	学識経験者	○
常務理事	渡邊 薫	学識経験者 元小学校長会会長	○
理 事	今辻千佳也	市教委 指導部 指導企画課長	
理 事	清水 文子	市教委 指導部 健康教育課長	○
理 事	中田一志呂	市教委 生涯学習部 生涯学習文化財課長	○
理 事	山崎 信也	小学校長会代表 森東小学校長	○
理 事	森田 真	中学校長会代表 矢向中学校長	○
理 事	佐竹 誠司	特別支援学校長会代表 日野中央高等特別支援学校長	
理 事	鳥山 克佳	学識経験者 市医師会推薦	○
理 事	峪 文隆	学識経験者 保護司 人権擁護委員	
理 事	黒川 典功	学識経験者 元中学校長会会長	
理 事	三枝木鉄朗	学識経験者 民生委員 児童委員	
理 事	青木俊太郎	学識経験者	
理 事	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会会長	○
理 事	立花 裕治	横浜市PTA連絡協議会副会長	○
理 事	栗原 秀泰	横浜市PTA連絡協議会副会長	
監 事	高橋 寛	市教委 総務部 総務課長	
監 事	荒城 玲子	横浜市PTA連絡協議会書記	
審査委員	新納 憲司	横浜市医師会副会長	
審査委員	真部 修	真部歯科院長	

○印は審査委員兼務

■見舞金等の給付

平成21年度見舞金等給付一覧

(平成21年 4 月 1 日～平成22年 3 月31日) (単位) 円

給付別種・事由・対象	給付件数	給付額
1 児童生徒事故見舞金	児 童 2,320	26,791,865
	(1) 傷害事故 生 徒 205	2,848,345
	(2) 障害 児 童 13	594,600
	生 徒 2	94,400
	(3) 交通事故 児 童 126	378,000
	生 徒 22	66,000
小 計	2,688	30,773,210
2 児童生徒弔慰金	(1) 学校管理下外 児 童 3	1,500,000
	事故死 生 徒 2	1,000,000
	(2) 交通事故死 児 童 1	200,000
	生 徒 0	0
	(3) 登下校中の 児 童 2	200,000
	交通事故死 生 徒 0	0
(4) 病死等 児 童 7		210,000
	生 徒 5	150,000
小 計	20	3,260,000
3 保護者弔慰金	小学校 119	3,570,000
	中学校 97	2,910,000
	高校・特別支援 4	120,000
小 計	220	6,600,000
4 P T A 主 催 共 催 金	(1) 傷害事故 26	652,615
	(2) 障害 0	0
	(3) 交通事故 0	0
	(4) 事故死 0	0
	(5) 往復途次の交通事故死 0	0
	(6) 病死等 0	0
小 計	26	652,615
合 計	2,954	41,285,825
振込手数料	2,059	611,415
総 計		41,897,240

平成22年度上期見舞金等給付一覧

(平成22年 4 月 1 日～平成22年 9 月30日) (単位) 円

給付別種・事由・対象	給付件数	給付額
1 児童生徒事故見舞金	児 童 1,222	13,633,705
	(1) 傷害事故 生 徒 109	1,500,790
	(2) 障害 児 童 4	83,100
	生 徒 0	0
	(3) 交通事故 児 童 52	156,000
	生 徒 13	39,000
小 計	1,400	15,412,595
2 児童生徒弔慰金	(1) 学校管理下外 児 童 3	1,500,000
	事故死 生 徒 1	500,000
	(2) 交通事故死 児 童 0	0
	生 徒 0	0
	(3) 登下校中の 児 童 0	0
	交通事故死 生 徒 0	0
(4) 病死等 児 童 1		30,000
	生 徒 4	120,000
小 計	9	2,150,000
3 保護者弔慰金	小学校 39	1,170,000
	中学校 46	1,380,000
	高校・特別支援 1	30,000
小 計	86	2,580,000
4 P T A 主 催 共 催 金	(1) 傷害事故 15	258,110
	(2) 障害 0	0
	(3) 交通事故 0	0
	(4) 事故死 0	0
	(5) 往復途次の交通事故死 0	0
	(6) 病死等 0	0
小 計	15	258,110
合 計	1,510	20,400,705
振込手数料	1,020	252,840
総 計		20,653,545

修学奨励金の給付

小学校	156人
中学校	50人
高等学校	6人
特別支援学校	12人
計	224人 7,460,000円
(給付額は小学生3万円、中学生4万円、高校生5万円)	

安全教育推進団体に対する助成

1	申請のあった単位PTAに対する助成	1校4万円(上限)	(円)
		396校	15,675,338
2	区・部会PTA講演会研修会等助成		3,600,000
3	横浜市PTA連絡協議会事業助成		2,550,000
4	第27回横浜港カッターレース		100,000
	(社)横浜勤労青少年福祉協会「夏休みお楽しみ教室」		150,000
	第17回若者の飲酒を考えるフォーラム		200,000
	第8回学校給食展示会		200,000
	横浜市民ギャラリー「横浜市内子どもの美術展2010」		150,000
	ハマキッズ・アートクラブ2010		50,000
	第15回野島クリスマスキャンプ2010		200,000
	磯子区小中学校インディアカ大会		50,000
	第8回横浜市内小学校タグラグビー交流会		30,000

会報の発行

第32号 平成23年2月26日 加入校全世帯へ配布

区・部会講演会研修会の開催

★各区・部会において、次の講演会研修会が開催されました。

区名	開催日	会場	事業名	講師
鶴見	12/4(土)	鶴見公会堂	講演会・パネルディスカッション「命の授業」	東京女子医科大学講師 田中 裕次 NPO公益活動コミュニティ「ももの木」理事 井上 千恵美
西	2/25(金)	西公会堂	講演会「思春期 心の風景 ～万件のカウンセリング経験から～」	横浜相原病院院長 吉田 勝明
中	10/26(火)	開港記念会館	講演会「学校・家庭・地域で子どもたちを守る」	神奈川県警察本部 少年 相談・保護センター係長 興梠 教三
南	1/15(土)	南公会堂	講演会「元気に育て！食育を学ぼう！」	田崎 真也
港南	9/16(木)	港南公会堂	全体研修会 講演会「トラブル？そのときどうしますか？」	鎌倉女子大教授 松永 昌幸
保土ヶ谷	1/18(火)	保土ヶ谷公会堂	講演会「かがやく未来に向かって～大人が子どもに伝えること～」	志茂田 景樹
旭	10/20(水)	旭公会堂	講演会「子どもの感性を育てる」	俳優・経営診断士 片岡 五郎
磯子	2/2(水)	杉田劇場	研修会(講演会)「戦場カメラマンとして、そして父として伝えたい事」	戦場カメラマン 渡部 陽一
金沢	12/12(日)	金沢産業振興センター	講演会「長所を伸ばす子どもの育て方・つきあい方 ～スポーツを通して考える親子のコミュニケーション」	横浜高校野球部監督 渡辺 元智
港北	1/30(日)	港北公会堂	講演会「あした、笑顔になあれ…夜回り先生からのメッセージ」	水谷 修
緑	3/4(金)	緑公会堂	研修会・全体会 講演会「子の心、親知らず」	笑福亭 松枝
青葉	11/25(木)	青葉公会堂	講演会「Believe～子どもの未来をたて糸に、大人の願いをよこ糸に、みんな輝く笑顔のために～」	岡崎・西居院住職 廣中 邦充
都筑	1/19(水)	都筑公会堂	講演会「ブラザートムさん講演会」～夢をみる場所～	ブラザートム
戸塚	12/17(金)	戸塚公会堂	活動交流会・全体会 今年度、各ブロック開催活動交流会報告 講演会「思春期の子どもたちの問題とその対応」	高橋 健雄
栄	11/30(火)	栄公会堂	講演会「子どもたちを犯罪から守るために今地域でできること」 演奏会「ヒダノ修一 スーパー太鼓ライブ」	国崎 信江 ヒダノ 修一
泉	11/6(土)	泉公会堂	全体会・組織運営委員会・ブロック交流会 講演会「大切な宝物を授 かった方々へ～子供たちがさらに輝くためのコミュニケーション～」	今村 園子
瀬谷	11/17(水)	瀬谷公会堂	講演会「～25年のサッカー人生の中で培った 生き方や人間関係・指導法」	元J1監督 松本 安太郎
高校	6/4、11/8	ロイヤルホールヨコハマ 他	講演会「フィンランドの学校と日本の学校」アイリッシュハー プコンサート・講演会「癒しのメロディーと涙と笑いのトーク」	翻訳家 坂根シルク ハープ演奏者 永山友美子

安全教育団体に対する助成

—各団体における活動の一コマ—

横浜市PTA連絡協議会助成

事業◆第27回山下公園ファミリー写真大会
 実施日◆平成22年4月25日(日)
 展覧会◆平成22年5月28日(金)～5月30日(日)(表彰式5月30日)
 場所◆山下公園(写真大会)
 桜木町びおシティ ゴールデンギャラリー(展覧会・表彰式)
 参加者◆約25000名

今年の写真大会は、天候不順が続き天気が心配されましたが、久しぶりの快晴に恵まれ、たくさんの家族の参加を得て行われました。この日は氷川丸で80周年のお祝いセレモニーも行われ、例年になく山下公園は家族連れで一杯でした。明るい日射しの中、山下公園は絵を描く家族で楽しそうに一日を過ごしていました。



区・部講演会・研修会助成(区研修会事例)

事例◆港南区PTA連絡協議会 秋季全体研修会
 講演会◆トラブル?そのときどうしますか。
 —保護者ができること…学校・教師とのつき合い方—
 講師◆松永昌幸氏(鎌倉女子大学教授)
 実施日◆平成22年9月16日(木)
 会場◆港南公会堂
 講演内容◆「なにより先生と保護者が信頼し合ういい関係を築くことが大切であり、そのためには日頃からのコミュニケーションが第一歩である。また家庭で子どもを叱るときも親が落ち着いて子どもの立場を考慮することで、子どもとも確固たる親子関係が築ける。学校でトラブルがあった場合の子どもに対する親の態度も同じである。また保護者同士で相談できる仲間を作る必要もある。」など具体的なお話から、いかに学校と親の信頼関係が大切かを再認識するきっかけになる講演会でした。



単P事業助成(小学校事例)

小学校事例◆横浜市立新橋小学校PTA
 事業◆「車いすバスケットボール」体験学習
 講師◆車いすバスケットボール選手の方々
 実施日◆平成22年11月4日(木)

人権教育をテーマに、車いすバスケットの選手の方々をお招きして体験学習会を開催しました。実際に車いすに乗って車いすを操作しました。また、車いすバスケットの選手に交じって対戦型の試合もさせてもらいました。障がいと付き合いながら前向きに生きる選手の方々からあきらめないことの大切さや、工夫したり努力したりすることの大切さを学ぶことができ、親子で命の大切さについて会話をするいい機会になりました。



単P事業助成(中学校事例)

中学校事例◆横浜市立軽井沢中学校PTA

事業◆「軽中ふれあい祭り」

実施日◆平成22年10月23日(土)

軽井沢中学校は平成23年度に創立50周年を迎えます。「軽中ふれあい祭り」は50周年のイベントと位置づけ、地域、学校、保護者が一体となり生徒の皆さんと交流できる祭りとなっています。今年は天候にも恵まれ多くの方々に軽井沢中学校を知ってもらえることができました。この祭りを通じて創立50周年に向け協力していく意識が更に強くなったと感じています。



夏休みお楽しみ教室

日時◆平成22年7月19・26日・8月2・9・16・23日の6日間
 場所◆横浜青年館
 講師◆元教員(主に退職された校長)有志
 内容◆小学生を対象に、自分の好きなことに挑戦してもらおうと平成19年度から「図工・習字・理科・音楽・茶道・囲碁・国算」の7教室を開催しています。(本年度は、中、高校生も対象)本年度は、385名の申込み者があり、児童、生徒、保護者から喜びの声が聞かれました。

この事業には、毎回横浜市安全教育振興会の後援を頂き助成金も賜り感謝しています。今後もこの事業を継続して参りたいと思いますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ハマキッズ・アートクラブ

日時◆平成22年5月23日～平成23年1月23日の間 9回開催
 対象◆小学生(プログラムによっては4歳～小学生)
 会場◆横浜市民ギャラリー アトリエ

2002年から続いている横浜市民ギャラリーの子どものための造形教室。毎回30名の子どもたちが、テーマに沿って作品を作り、最後にはお互いの作品を鑑賞します。今年度は多文化共生から「日本を知って世界とつながろう」というテーマで、和紙や墨、筆などを使った講座も実施しました。



12月18日実施「屏風を作ってお正月を飾ろう」から

第15回野島クリスマスキャンプ2010

日時◆平成22年11月27日(土) ふれあいの会 206名
 平成22年12月11日(土)～12日(日)
 第15回野島クリスマスキャンプ2010 234名
 場所◆野島青少年研修センター
 参加者◆児童生徒・保護者・ボランティア・実行委員等

ふれあいの会では保護者がカレーライスを作り楽しい昼食。当日は児童生徒はディナー作り、保護者はクリスマスケーキ作りをして楽しいディナー。キャンドルは市内小学校教員による金管・木管楽器の演奏に合わせ歌ったり踊ったりで楽しみ、サンタからのプレゼントに嬉しそう。

2日目の親子活動は野島公園での「宝さがし」をして楽しく2日間を過ごしました。

この事業は安振会をはじめ多くの方々に支えられて続けられていることに感謝いたします。

